

第 **2** 章

## 都市の現況と課題

---

2-1 甲府市の概況

2-2 市民意向

2-3 分析・課題



市の花 ナadeshiko



## 2-1 甲府市の概況

### (1) 位置・地形

本市は、首都東京から西へ約100kmの距離にあり、山梨県のほぼ中央部に位置しています。北に八ヶ岳、南に富士山、西に南アルプス連峰を望む景勝の地であり、市街地は、甲府盆地の中心に位置し、おおむね平坦ですが、北に高く南に低く傾斜しています。

また、市内を秩父多摩甲斐国立公園の主峰を源とする荒川が流れ、渓谷美を誇る御岳昇仙峡や芦川渓谷といった豊かな自然に恵まれています。

本市の面積は212.47km<sup>2</sup>で県土の約4.8%にあたり、都市計画区域は93.23km<sup>2</sup>であり市域の約44%を占めています。

### (2) 気候

本市は盆地のため寒暖の差が激しく、夏季には日本有数の酷暑となる地域です。暖候期には風が弱く降水量が約180mm（9月平均）と多い一方で、寒候期には北西の季節風が強く降水量は約32mm（12月平均）と少ないため、年間降水量は全国平均より少ない地域です。

また、全国でも日射量が多い地域であり、年間日照時間は全国の県庁所在地の中で最も長いのが特徴です。

### (3) 歴史

県都としての本市の歴史は、中世（戦国時代）の1519年（永正16年）に、武田信玄の父信虎が、躑躅が崎の館を本拠地として城下町の建設に着手し、甲斐の府中「甲府」が誕生したところから始まります。

近世（江戸時代）には、現在の市街地の基盤となる甲府城を中心とした城下町が形成され、柳沢氏の時代に最も繁栄しました。

甲府に市制が施行されたのは近代（明治～戦前）の1889年（明治22年）で、山梨県の政治・経済・文化の中心地として発展し、2000年から特例市となり、開府500年を迎える2019年に中核市移行を目指しています。

図 広域位置図



【出典：Mapion】

表 本市の概要

面積	212.47km <sup>2</sup>
人口（2018年1月）	190,118人
人口密度	894.8人/km <sup>2</sup>
都市計画区域面積	93.23km <sup>2</sup>
東西最長	15.3km
南北最長	41.5km

【資料：第六次甲府市総合計画（面積、最長）  
甲府市都市計画基礎調査（都市計画区域面積）  
甲府市統計書（人口、人口密度）】



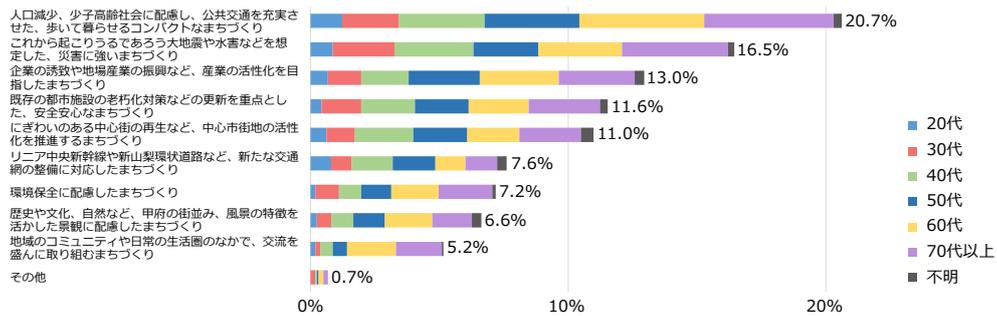
## 2-2 市民意向

### 市民アンケート調査

市内在住の満20歳以上79歳以下の市民2,000人（無作為抽出）を対象に、アンケート調査を実施しました。

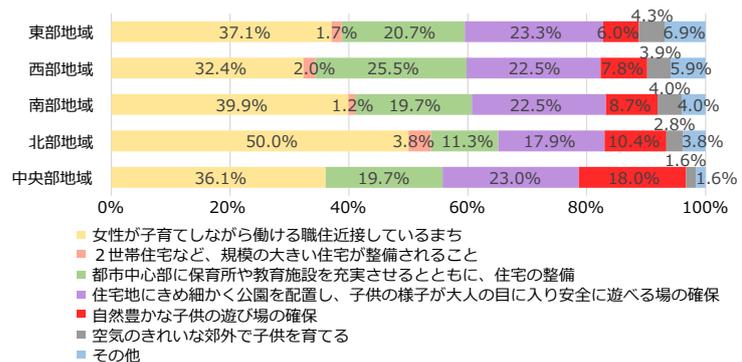
#### Q. 今後の甲府市のまちづくりにおける重視すべき分野

##### ■ 集計表（複数回答可）



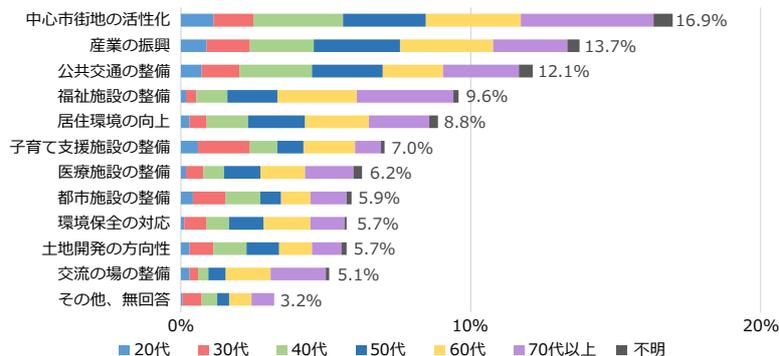
- > 「人口減少、少子高齢社会に配慮し、公共交通機関を充実させた、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」が最も高く、少子化に対し子育て環境への配慮として、「自然豊かな子供の遊び場の確保」が、中央部地域で他地域より多い結果でした。
- > 年齢別において、「リニア中央新幹線や新山梨環状道路など、新たな交通網の整備に対応したまちづくり」が、若い世代ほど高い結果でした。

##### ■ Q. 少子化に対し、子育て環境への配慮（地域別クロス集計）



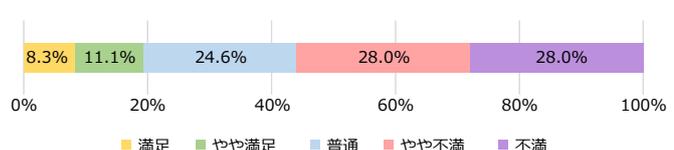
#### Q. 今後の甲府市のまちづくりにおける重要な課題

##### ■ 集計表（複数回答可）



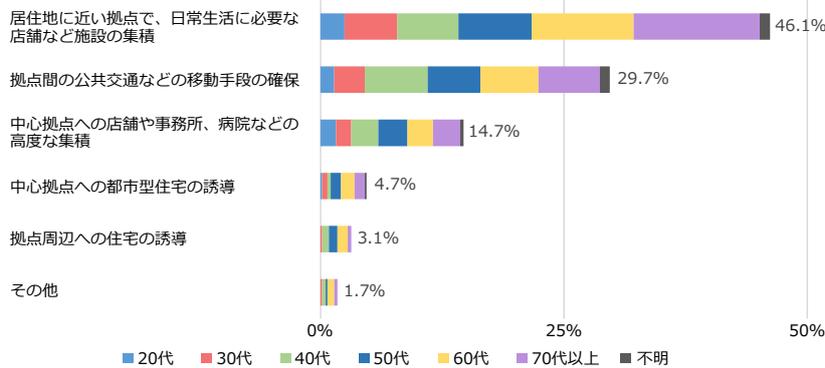
- > 「中心市街地の活性化」「産業の振興」「公共交通の整備」が上位となっており、「鉄道・バスなどの利用しやすさ」では、「やや不満」「不満」が過半数を占める結果でした。
- > 年齢別において、ほとんどの世代で「中心市街地の活性化」が最も高い結果である中で、30代で「子育て支援施設の整備」、50代で「産業の振興」が最も高い結果でした。

##### ■ Q. 鉄道・バスの利用しやすさ（単純集計）



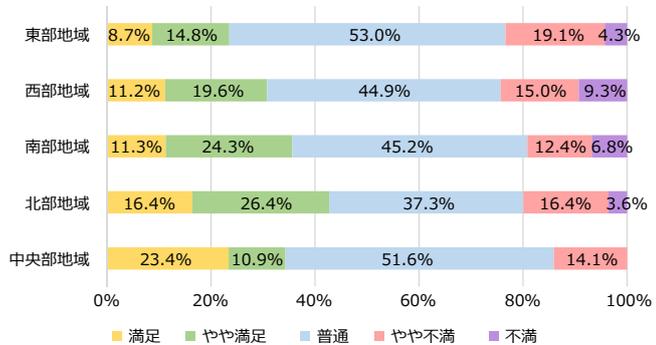
## Q. 今後の甲府市の都市構造における重視すべき項目

■集計表（複数回答可）



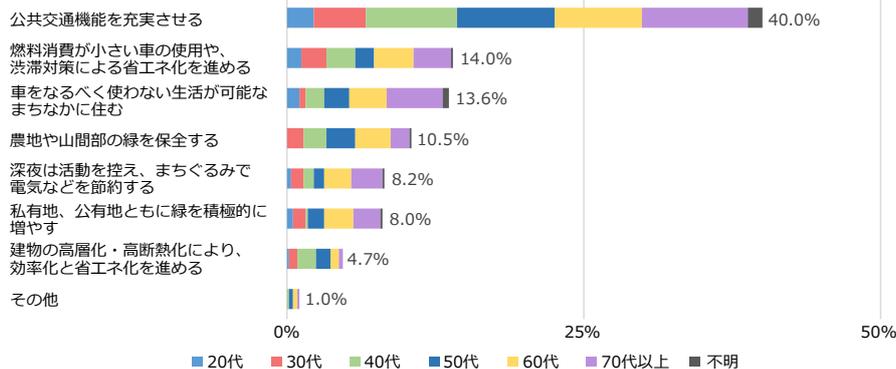
> 「居住地に近い拠点で、日常生活に必要な店舗など施設の集積」が半数近くあり、「拠点間の公共交通などの移動手段の確保」が約30%の回答でした。  
 > 年齢別において、「中心拠点への店舗や事務所、病院など高度な集積」が20代で約30%で、他世代より多くなっており、中央部地域における、「病院など医療施設の利用しやすさ」は、「やや不満」が14%程度あるものの「不満」との回答はありませんでした。

■Q. 病院など医療施設の利用しやすさ（地域別クロス集計）



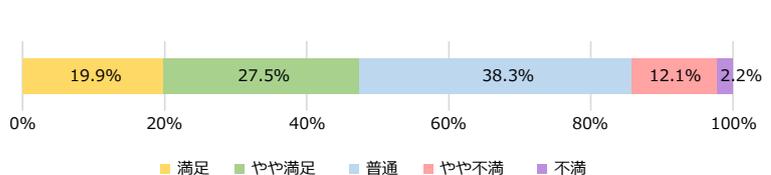
## Q. 今後の甲府市のまちづくりにおける環境への配慮項目

■集計表（複数回答可）



> 「公共交通機能を充実させる」が最も高い結果で、「燃料消費が小さい車の使用や、渋滞対策による省エネ化を進める」「車をなるべく使わない生活が可能なまちなかに住む」と続きました。  
 > 年齢別において、「農地や山間部の緑を保全する」は、20代で回答がなかったものの、その他の世代では上位の回答率となっており、みどりや自然の豊かさに対して「やや不満」と「不満」は14%程度でした。

■Q. みどりや自然の豊かさ（単純集計）



## 市民ワークショップ

市民ワークショップは、各地域の居住者で自治会連合会に推薦していただいた方と応募していただいた市民の方で構成し、2016年3月から2016年6月まで毎月1回、全4回開催しました。

写真 第1回ワークショップの様子



### 【分野別の課題】 検討テーマ：地域の課題を把握し、将来をイメージしよう

人口に関すること 人口減少対策、少子高齢化対策	コミュニティに関すること 地域のつながりの希薄化、多世代交流の促進
土地利用に関すること 秩序ある土地利用の促進、無計画な宅地開発の抑制	産業振興に関すること 企業誘致、農業振興、歴史・文化資源を活かした観光振興
道路・交通に関すること 公共交通の利便性向上、都市計画道路の整備	緑・公園・環境に関すること 身近な緑の整備・保全、景観の保全
福祉・生活・住環境に関すること 空き家対策、身近な生活利便施設の充実、子育てしやすい環境づくり	河川整備に関すること 親水性の高い河川の利用
防災に関すること 避難体制の強化	その他 都市計画・土地利用の方針や制度の周知

### 【テーマ別の課題】 検討テーマ：まちづくりの課題解決のアイデアを考えよう

<p>&lt;テーマ1&gt; 歩いて暮らせる便利なまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>日常的な生活環境</b> 健やかでいきいき暮らせて、便利なまちを支える生活環境づくりが必要である。</li> <li>・ <b>身近な道路</b> 歩いて暮らせるまちづくりに向けて、安全で快適な道路空間の実現が必要である。</li> <li>・ <b>居住地域</b> 快適で秩序ある居住地域の実現に向け、計画的な土地利用を推進する必要がある。</li> </ul>	<p>&lt;テーマ2&gt; 人で賑わう活力のあるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>中心市街地のにぎわい</b> 誰もが中心市街地を訪れたいと思わせる「まちの魅力向上」が必要である。</li> <li>・ <b>まちなか居住</b> まちの賑わい創出に寄与する居住人口の増加に向けて、暮らしやすい環境づくりが必要である。</li> <li>・ <b>都市基盤・公共交通</b> 中心市街地に訪れやすくするための基盤整備や公共交通の見直しが必要である。</li> </ul>
<p>&lt;テーマ3&gt; 産業が成長・発展し、多様な交流が生まれるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>商業・工業の振興</b> 多世代の働き口となる企業誘致や地場産業の強化が必要である。</li> <li>・ <b>農業の振興</b> 農地の有効活用や農業の担い手確保等による農業振興を図る必要がある。</li> <li>・ <b>広域交通</b> 産業・農業・観光振興を図るために、広域交通網を整備する必要がある。</li> </ul>	<p>&lt;テーマ4&gt; みどり豊かな潤いのある快適なまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>都市と自然の調和</b> 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、緑化推進や里山保全等に努める必要がある。</li> <li>・ <b>甲府らしい景観</b> 甲府らしい自然、歴史、文化を活かした美しく風格あるまちづくりを行う必要がある。</li> <li>・ <b>環境や景観への関心</b> 自然環境や地球温暖化への関心を高めるため、市民活動を促進する必要がある。</li> </ul>

【テーマ別の課題】 検討テーマ：目指すべきまちに向け、どのようにしたらよいか考えよう

<p>&lt;テーマ1&gt; 歩いて暮らせる便利なまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>日常生活圏の再生</b> 高齢者や子育て世代が健やかでいきいき暮らせる日常生活圏の再生を目指し、歩いて暮らせるまちづくりに向けた生活環境の改善や、身近な公園など既存ストックを活かした憩いの場の創出を図ります。</li> <li>・<b>身近な生活道路の改善</b> 安全で快適な日常生活圏の形成に向けて、まちの骨格となる道路整備や身近な生活道路の改善等を進めます。</li> <li>・<b>秩序ある郊外の土地利用促進</b> 持続可能なまちづくりに向けて、郊外における無秩序な宅地開発を抑制し、快適で秩序ある居住地域の形成を目指します。</li> </ul>	<p>&lt;テーマ2&gt; 人で賑わう活力のあるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>中心市街地の再生</b> 中心市街地の再生に向けて、行政機関や商業業務、観光、文化、医療・福祉施設などの都市機能を中心市街地により集約させ、都市拠点の充実を図ります。</li> <li>・<b>まちなか居住の促進</b> まちの賑わい創出に寄与する居住人口の増加に向けて、郊外への居住の拡散を抑制し、医療、福祉などの都市施設の集積を図ります。</li> <li>・<b>交通基盤の改善</b> 道路等の基盤整備やバスネットワーク等の公共交通の見直しを行います。 交通弱者や地域需要に対応した公共交通網の改善を促進し、利便性の向上及び利用者の増加を図ります。</li> </ul>
<p>&lt;テーマ3&gt; 産業が成長・発展し、多様な交流が生まれるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>商業・工業の振興</b> リニア開業等の広域高速交通網や高度情報社会に対応した「次世代型産業」「地域に根ざした産業」の振興を通じて、「甲府市や甲府圏域で働きたい」と思わせる環境づくりに取り組みます。</li> <li>・<b>農業の振興</b> 持続可能な農業振興に向けて、優良農地の保全や、新規就農者増加の取組を進めていきます。</li> <li>・<b>広域交通網の充実</b> 甲府都市圏と県内外を結ぶ広域交通網の整備を促進し、広域連携軸の強化を図ることで産業振興を支援します。 リニア駅周辺を多様な交流が創出する拠点として位置付け、中心市街地との連携を強化することで、市全体に賑わいが広がるまちづくりを目指します。</li> </ul>	<p>&lt;テーマ4&gt; みどり豊かな潤いのある快適なまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>都市と自然の調和の実現</b> 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために、市街地や郊外の緑化推進や農地・里山保全等に努めます。</li> <li>・<b>甲府らしい景観の保全と創出</b> “甲府らしさ”を構成する様々な景観を、それぞれの特性や地域の実情等に即し、保全又は創出します。 ふるさと甲府の景観づくりを、市民、事業者、行政等が力を合わせて進めます。</li> <li>・<b>環境や景観の向上</b> 甲府特有の自然を活かした市民活動の促進を通じて、自然環境や景観への関心を高めながら、地球温暖化を抑制するため、市民、事業者、行政等が協働して取り組みます。</li> </ul>

写真 第2回ワークショップの様子



写真 第3回ワークショップの様子



写真 第4回ワークショップの様子



## 2-3 分析・課題

### 分析・課題①

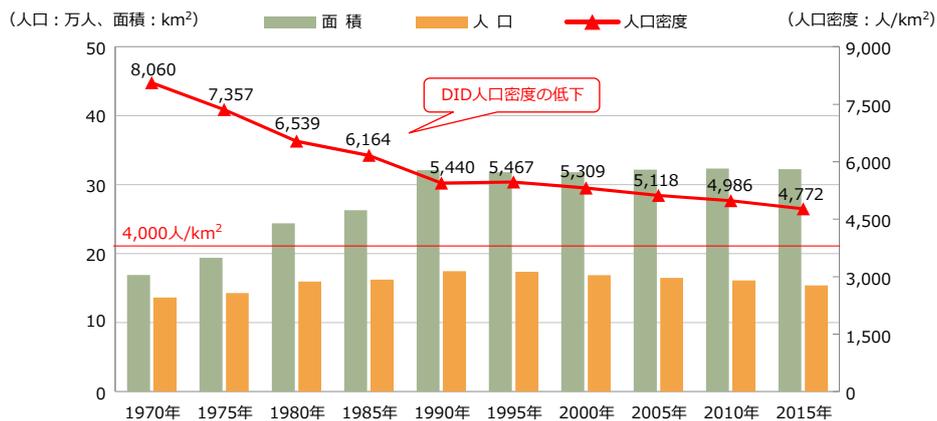
#### 現況の分析

- ・市街地外への人口流出等により、人口集中地区（DID）の人口密度の低下に伴う都市のスポンジ化（空洞化）が懸念されます。
- ・市街化区域内で人口が減少している一方で市街化調整区域では人口が増加しており、無秩序に都市が拡散しています。

#### 課題①

➤ **都市的サービスやコミュニティの維持・活性化を図るため、郊外への居住の拡散抑制、適切な都市施設及び居住の誘導により、市街化区域の人口密度を維持していくことが必要です。**

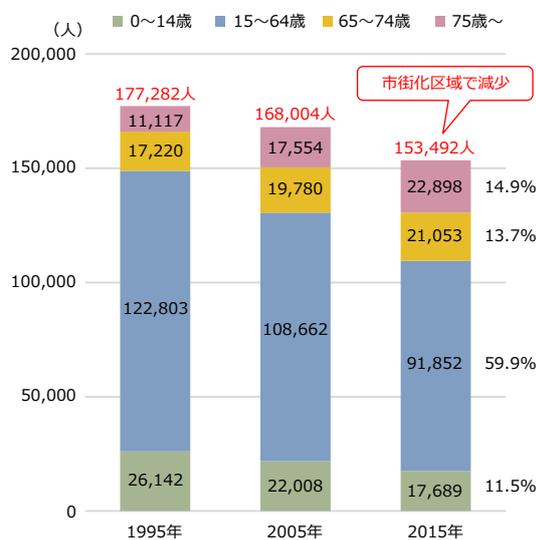
図 人口集中地区（DID）人口・面積及び人口密度の推移



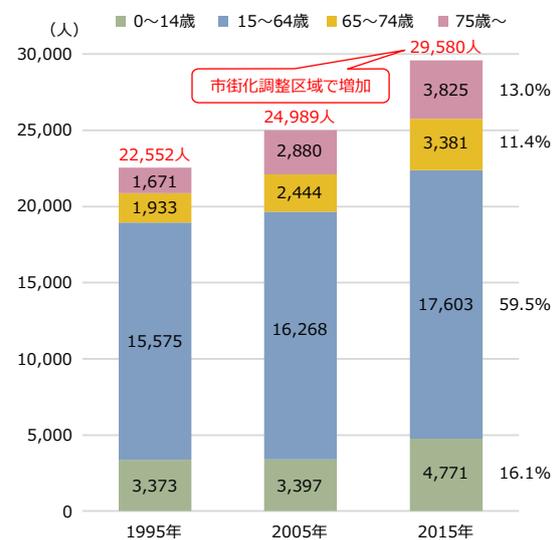
【資料：甲府市統計書】

図 区域別人口の推移

【市街化区域】



【市街化調整区域】



【資料：総務省国勢調査】

## 分析・課題②

### 現況の分析

- ・教育施設、行政機関などの都市機能が集積している中心市街地の人口は激減している中で、世帯数は横ばいであることから核家族化が進んでおり、中心市街地の活力低下を招いているため、一層まちの再生が急務です。
- ・中心市街地の歩行者通行量や小売販売額は減少傾向にあり、日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいなどの身近に存在する区域において、積極的なまちづくりが求められています。



### 課題②

➤ **甲府市の核となる中心市街地の賑わいや魅力は、市全体の活性化につながるため、中心市街地を含む都市機能を誘導すべき区域の充実が必要です。**

図 中心市街地人口及び世帯数の推移

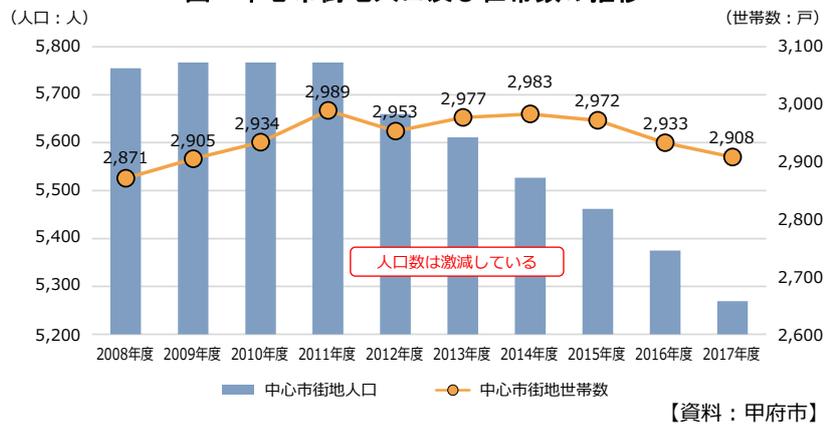


図 中心市街地歩行者通行量の推移

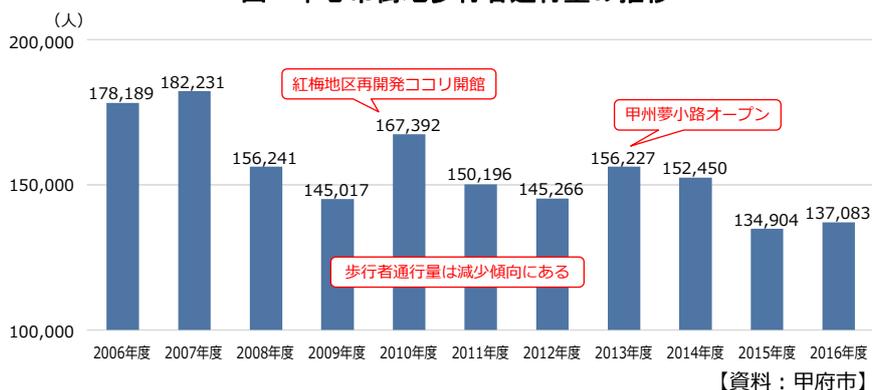
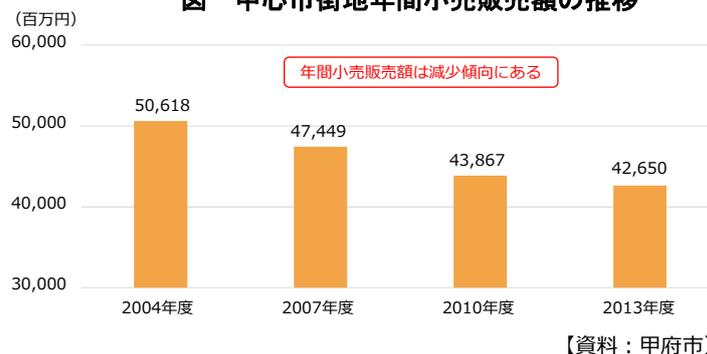


図 中心市街地年間小売販売額の推移



### 分析・課題③

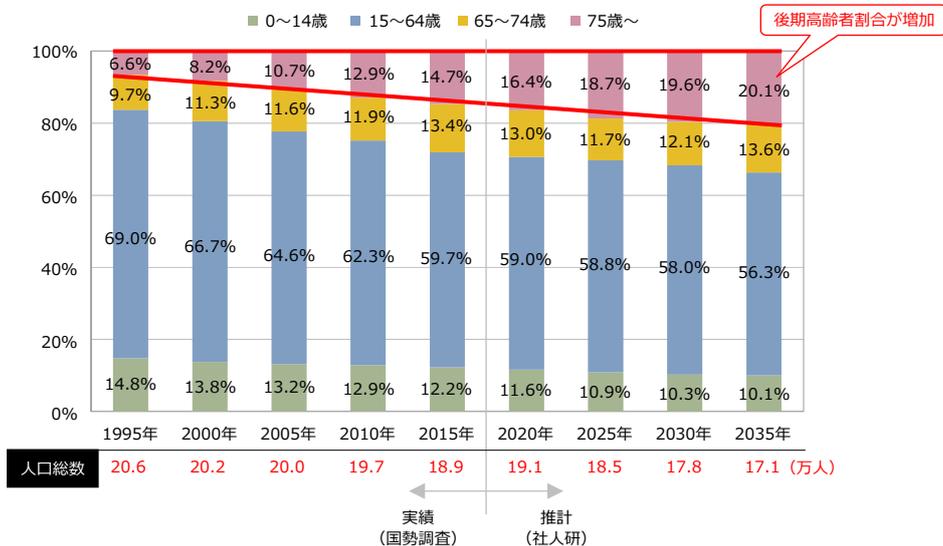
#### 現況の分析

- ・人口減少が見込まれる中、年少人口の減少と高齢者人口の増加が見られ少子高齢化が進行しており、後期高齢者人口の割合が前期高齢者人口の割合よりも高いことから、高齢化が深刻化しています。
- ・交通機関分担率の変化より、年々自家用車の利用が増加しており、公共交通離れが進んでいます。

#### 課題③

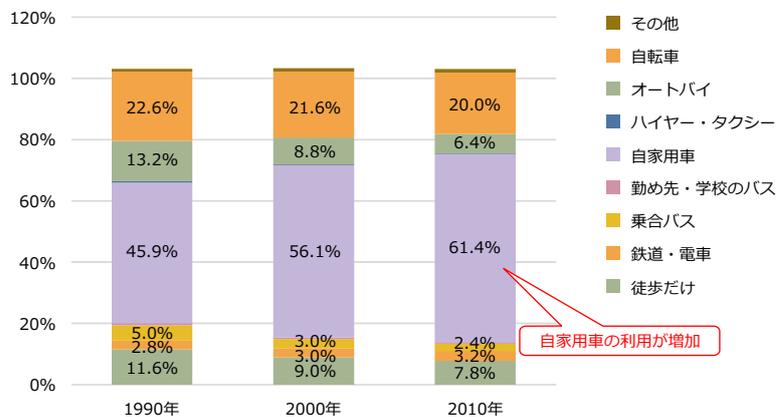
➤ **高齢者をはじめとする交通弱者の増加が予想されるため、居住を誘導すべき区域において、高齢者の生活環境や子育て環境を向上させ、歩いて暮らせるまちづくりが必要です。**

図 年齢4区分別人口割合の推移



【資料：総務省国勢調査（年齢不詳を除く）、国立社会保障・人口問題研究所】  
※2015年総務省国勢調査を基準として推計

図 通勤通学時の交通機関分担率の変化



【資料：総務省国勢調査】

## 分析・課題④

### 現況の分析

- ・義務的経費は増加しており、今後30年間で公共施設の保有量（延床面積）を31%削減する目標を掲げています。
- ・建築後30年以上経過した施設は全体の51.4%を占めており、将来的に大幅な建替えが予想されます。
- ・これまで多くのインフラ資産が整備されてきましたが、老朽化が進み順次更新の時期となり、多額の費用がかかることが見込まれます。

### 課題④

➤ 公共施設及びインフラ資産の既存ストックは、将来的に更新など費用の増大が予想されるため、施設総量の適正化、長寿命化及び効率的な施設運営を図る必要があります。



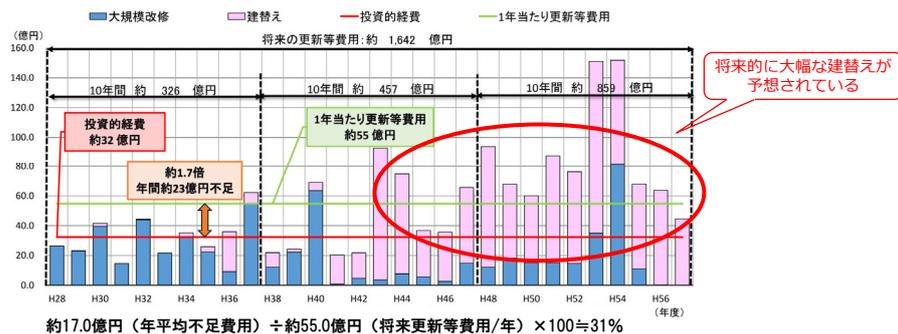
図 歳出の推移



高齢化の進行などにより増加傾向

【資料：甲府市公共施設等総合管理計画】

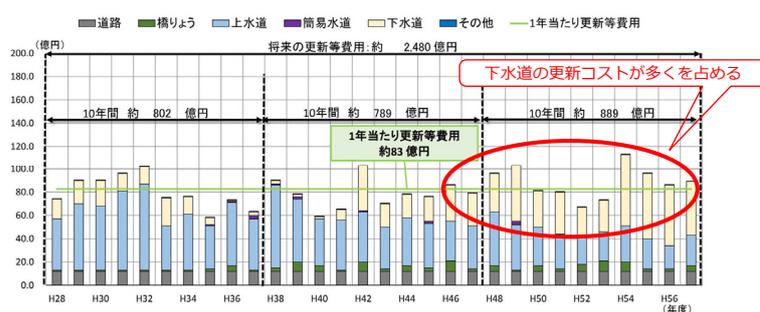
図 公共施設の将来の更新等費用の推計



$$\text{約17.0億円（年平均不足費用）} \div \text{約55.0億円（将来更新等費用/年）} \times 100 \approx 31\%$$

【資料：甲府市公共施設等総合管理計画】

図 インフラ資産の将来の更新等費用の推計



【資料：甲府市公共施設等総合管理計画】

## 分析・課題⑤

### 現況の分析

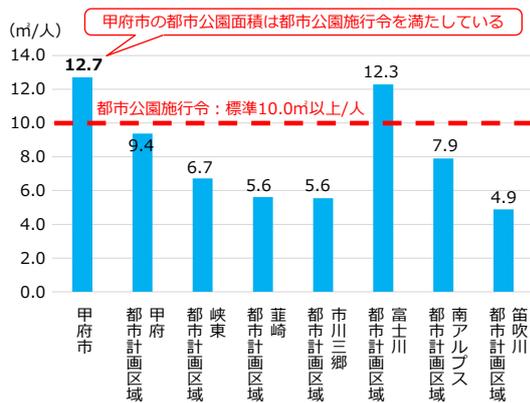
- ・市民一人当たりの都市公園面積は約12.7㎡であり、甲府市都市公園条例（標準10㎡以上/人）を満たしていますが、中央ブロックにおける1人当たりの開設されている公園面積は少ない状況です。
- ・遊亀公園及び附属動物園は集客力が期待される重要な都市機能であることから、効果的な再整備が急務です。



### 課題⑤

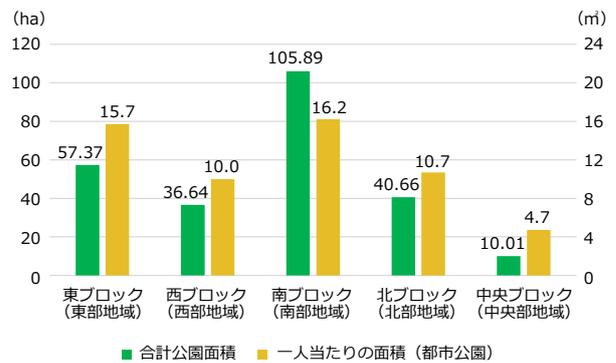
➤ **身近な施設を活用し憩いの場や子育て環境の充実を図るため、甲府のシンボルである遊亀公園及び附属動物園を再整備し、都市環境の改善を行う必要があります。**

図 甲府盆地7都市計画区域における1人当たりの都市公園面積



【資料：山梨県の都市計画（資料編）（2014年3月現在）】

図 公園整備の状況



【資料：甲府市（2011年度）】

図 遊亀公園及び附属動物園の入園者数と顧客吸引率の推移



【資料：甲府市】

## 分析・課題⑥

### 現況の分析

- ・ 空き家総数は増加傾向にあり、特に中央部地域は空き家数が850戸、各地域の棟数に占める空き家の割合は8.10%と他地域と比べて最も高く、空き家の活用又は除却が急務です。
- ・ 中央部地域においては、利活用を図れる空き家が80%以上ある一方で、倒壊や建設材の飛散など危険が切迫している空き家が他の地域と比べて多い状況です。

### 課題⑥

➤ **都市のスポンジ化は、市民の生活環境に深刻な影響を及ぼすため、空き家や空き地等の既存ストックを活用し、居住環境の整備改善が必要です。**

図 空き家総数の推移



【資料：総務省住宅・土地統計調査】

表 空き家総数の内訳 (2013年度)

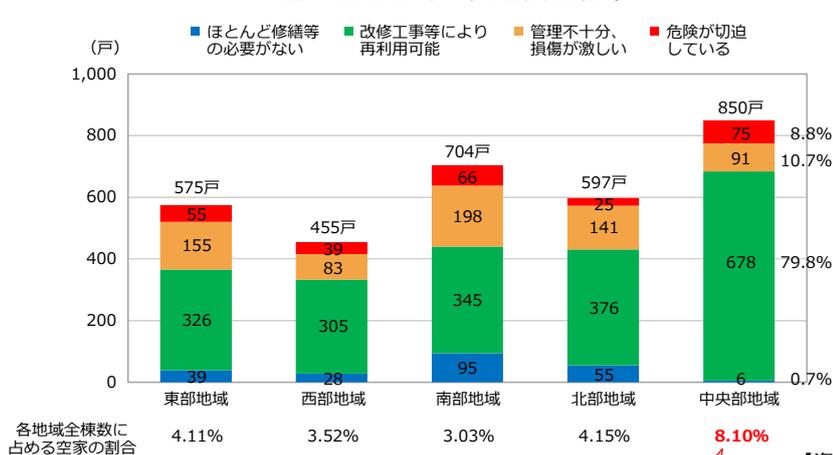
	二次的住宅	賃借用の住宅	売却用の住宅	その他の住宅	総数
各数	860	15,000	580	6,120	22,560

※二次的住宅：週末や休暇時に避暑、避寒、保養等の目的で使用される住宅で、普段は人が住んでいない住宅

※サンプリング調査

【資料：総務省住宅・土地統計調査】

図 空き家等の実態調査結果



中央部地域で空き家率が高い

【資料：甲府市空家等対策計画】



## 分析・課題⑧

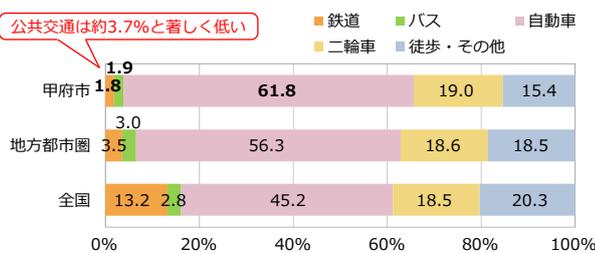
### 現況の分析

- ・甲府市における公共交通の分担率は約3.7%と全国と比べても低く、自動車分担率は約61.8%と過度な車依存である一方で、鉄道駅では、甲府駅利用者数が横ばいであり、JR身延線利用者数は少ない状況です。
- ・市内のバス路線は、甲府駅を中心として放射状に広がっており市内を概ね網羅していますが、東部地域及び（仮称）リニア山梨県駅建設地である南部地域において、バス交通の空白地域が見られます。

### 課題⑧

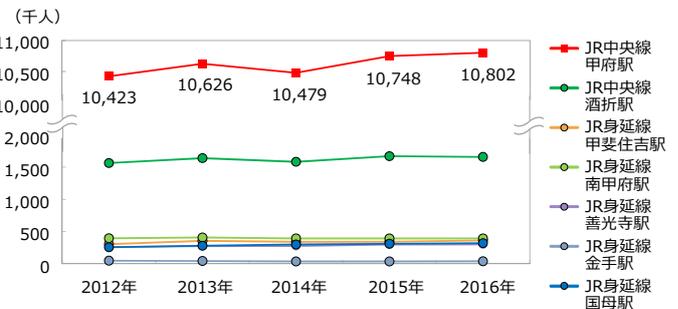
➤ 甲府駅と（仮称）リニア山梨県駅間を基幹軸として拠点間の連携を強化するため、JR身延線や路線バスなどを活用した効率的で利便性の高い公共交通体系の実現が必要です。

図 交通機関分担率の比較



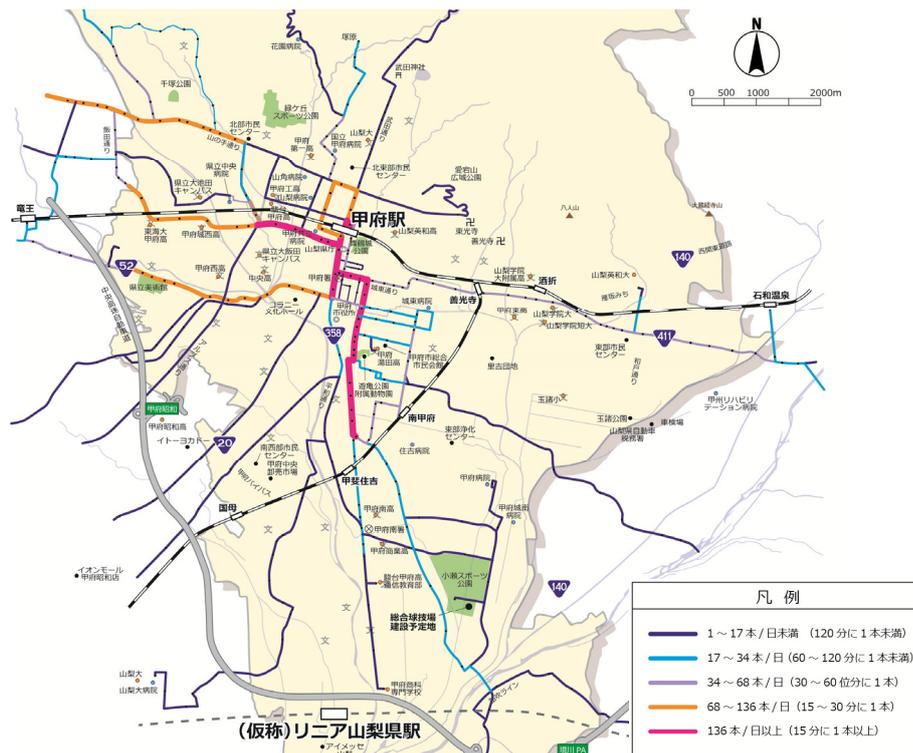
【資料：山梨県甲府都市圏総合交通体系調査報告書  
国土交通省全国都市交通特性調査集計結果  
(甲府市以外)】

図 市内の駅乗降客人数の推移



【資料：甲府市都市計画基礎調査（2017年度）】

図 バス路線網図



【資料：甲府市公共交通体系基本構想】

## 分析・課題⑨

### 現況の分析

- ・ 拠点に不足する都市機能を補い合い連携するための軸となる都市計画道路の整備状況は、整備率57.1%と全国的（平均63.6%）にも低い状況です。
- ・ 都市機能の安全安心な利便性向上が必要である中で、度重なる地震への対策を重点に学校施設の耐震化は完了しましたが、指定避難路沿いの民間建築物の耐震化への認識は低い状況です。



### 課題⑨

➤ 地域活力の創出や震災の被害を最小化するため、都市計画道路整備プログラムに基づき、効果的・効率的な道路ネットワーク整備の推進や拠点間を結ぶ沿道の防災対策が必要です。

図 都市計画道路の整備状況



図 市立学校施設の耐震化状況

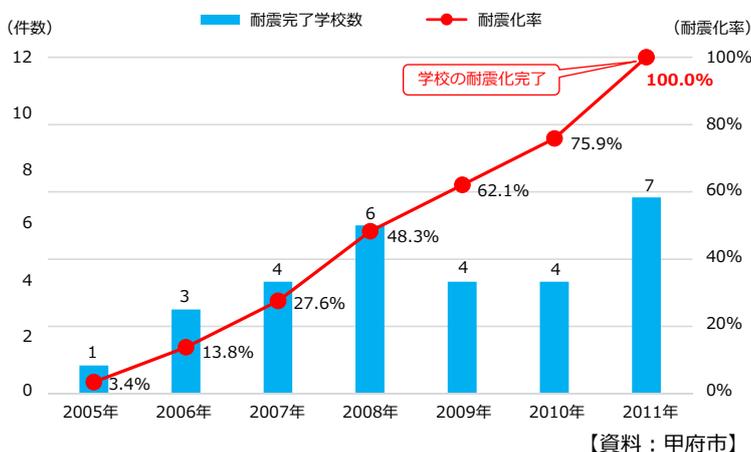


表 指定避難路における民間建築物の耐震診断状況

事業開始年度	2015年度～
指定避難路	約145.9km(57路線)
耐震診断対象戸数	251戸
診断済戸数	33戸（内耐震性を有する1戸）

2017. 3. 31現在

【資料：甲府市耐震改修促進計画】

## 分析・課題⑩

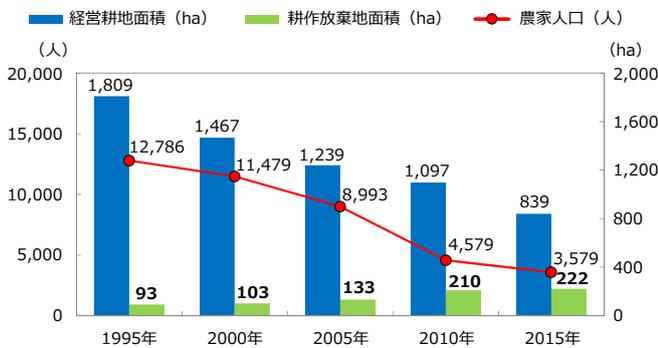
### 現況の分析

- ・農家人口、経営耕地面積及び農作物販売金額は減少しており、農業の衰退が懸念されるとともに、耕作放棄地面積のさらなる増大が危惧されます。
- ・市街化区域と比べ市街化区域外（農業振興地域）での開発及び農地転用が多い状況です。

### 課題⑩

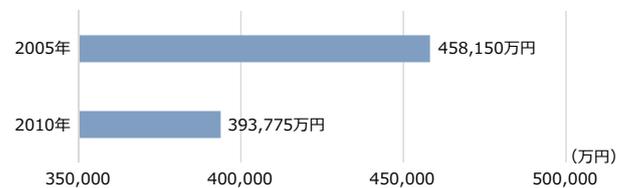
➤ **都市の健全な発展や持続可能な農業を推進するため、農業の法人化を通じて耕作放棄地を活用するなど農業振興施策と適切に連携を図る必要があります。**

図 経営耕地面積、耕作放棄地面積、農家人口の推移（合計）



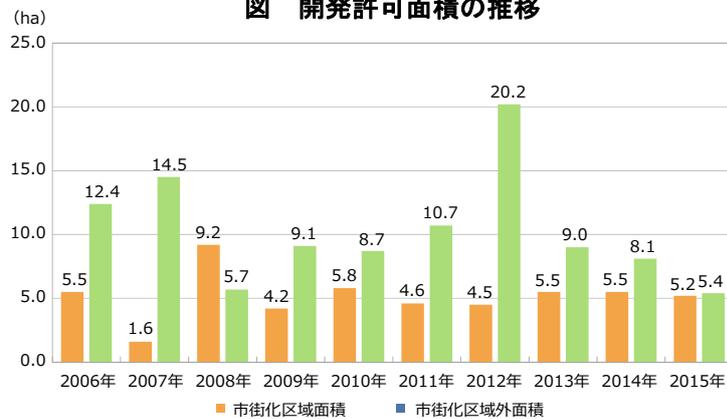
【資料：農林水産省農林業センサス】

図 農作物販売金額の推移（総額）



【資料：経済産業省・内閣官房地域経済分析システム（2010年）】

図 開発許可面積の推移



【資料：山梨県土地利用動向調査】

図 農地転用面積の推移



【資料：山梨県土地利用動向調査】

## 分析・課題⑪

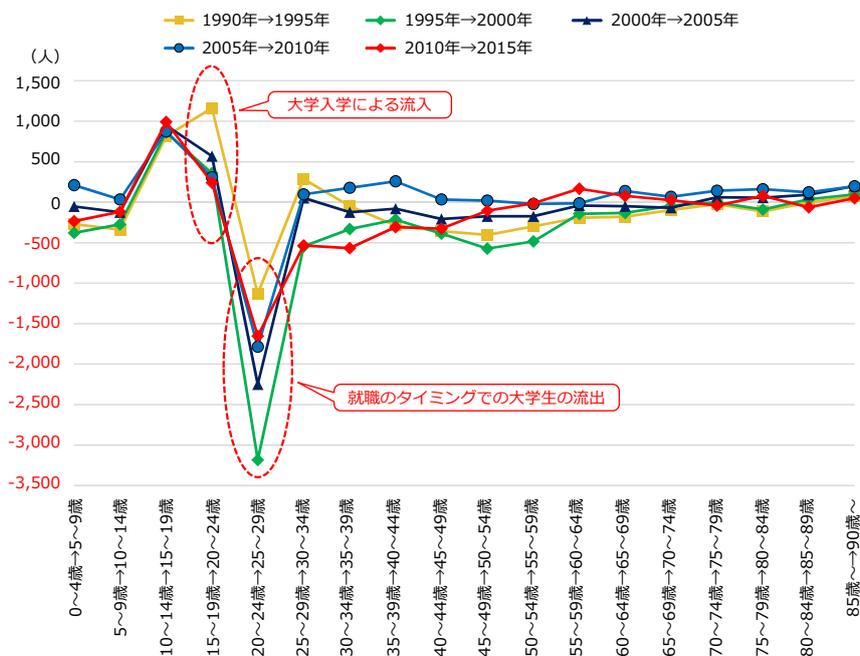
### 現況の分析

- ・人口移動の長期動向は、大学入学による流入が一時的にあり、その後の就職時での流出が極めて多い状況です。
- ・産業構成割合は、極端に第3次産業の割合が高く、第1次・第2次産業の割合が低くなっています。
- ・ホテルや旅館施設数は横ばいに推移していますが、リニア開業による観光客やビジネスユーザーの増加が期待されます。

### 課題⑪

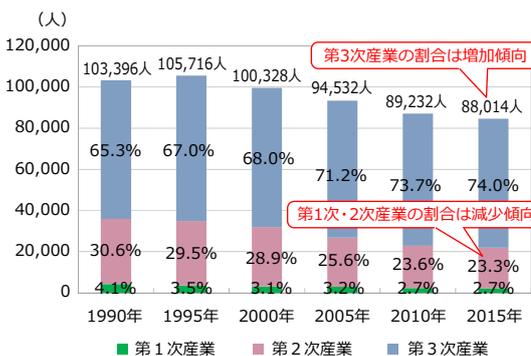
➤ リニア開業など新たな交通手段を有効に活用する中で、工場、ホテル・旅館、観光施設、農場等、産業の誘致と安定的な雇用の確保を図る必要があります。

図 年齢階級別の人口移動の長期動向



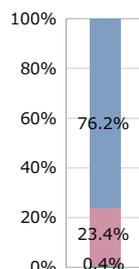
【資料：甲府市人口ビジョン】

図 産業別就業人口の推移



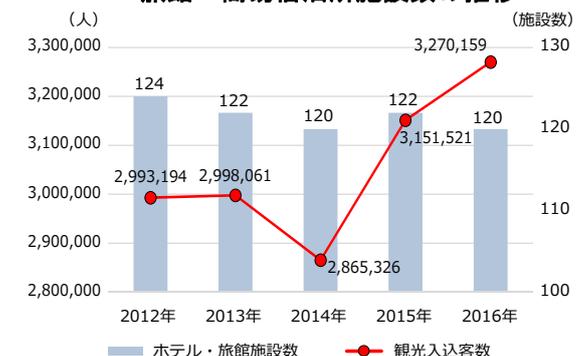
【資料：総務省国勢調査】

図 生産額割合



【資料：経済産業省・内閣官房地域経済分析システム(2010年)】

図 甲府市の観光入込客数とホテル・旅館・簡易宿泊所施設数の推移



【資料：山梨県観光入込客統計調査報告書、(公財)日本交通公社旅行年報2016】

## 分析・課題⑫

### 現況の分析

- ・ 既存工業団地は、すべて入居済みであるとともに、本来工業系の用途に利用されるべき用途地域が、住宅か商業系に利用されており、産業用地が減少しています。
- ・ 第3次産業において不動産の構成割合が多いのは、第2次産業の建設業の多さにも連動しており、人口減少しているものの核家族化により宅地開発がされているため、産業用地の確保が困難です。

### 課題⑫

➤ 周辺環境、物流環境及び経済性が良い産業の集積地を確保するため、インターチェンジ周辺や工業団地周辺などの適地に産業立地を促す計画的な土地利用や支援施策が必要です。

図 工業系土地利用の現況

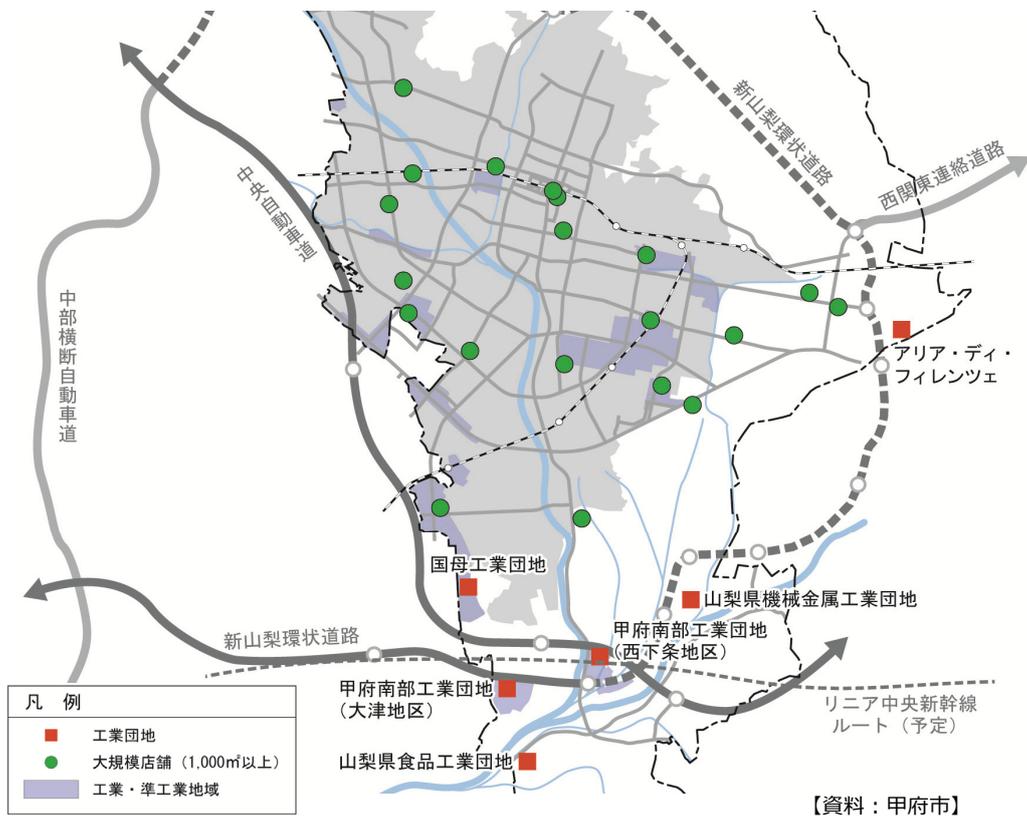


図 第2次産業別割合の状況

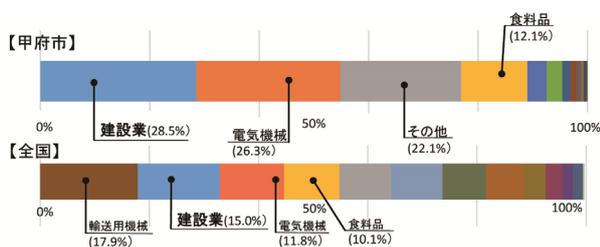
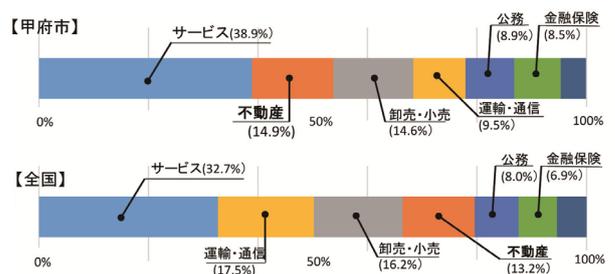


図 第3次産業別割合の状況



【資料：経済産業省・内閣官房地域経済分析システム（2010年）】

## 分析・課題⑬

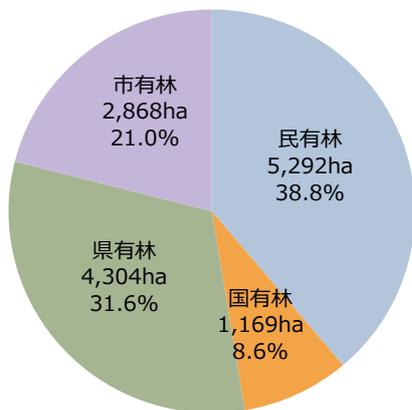
### 現況の分析

- ・森林は、本市の総面積の約64%を占めており、災害危険区域の指定が多い中山間地域に分布している中で、水源かん養、災害防止等多面的な機能を有しています。
- ・居住を誘導すべき区域において、都市農地は良好な市街地環境を形成しています。また、その区域の外側は、持続可能な土地利用策として農地の役割が重要です。

### 課題⑬

➤ 本市の恵まれた森林や農地を保全・活用し、資源の適正な管理及び有効な利用を図るため、都市と緑・農が共生する循環型社会の構築が必要です。

図 森林の所有形態



森林面積 : 13,633ha  
(行政面積 : 約64%)

【資料：甲府市緑の基本計画】  
※森林面積：森林簿から抽出

図 災害危険区域

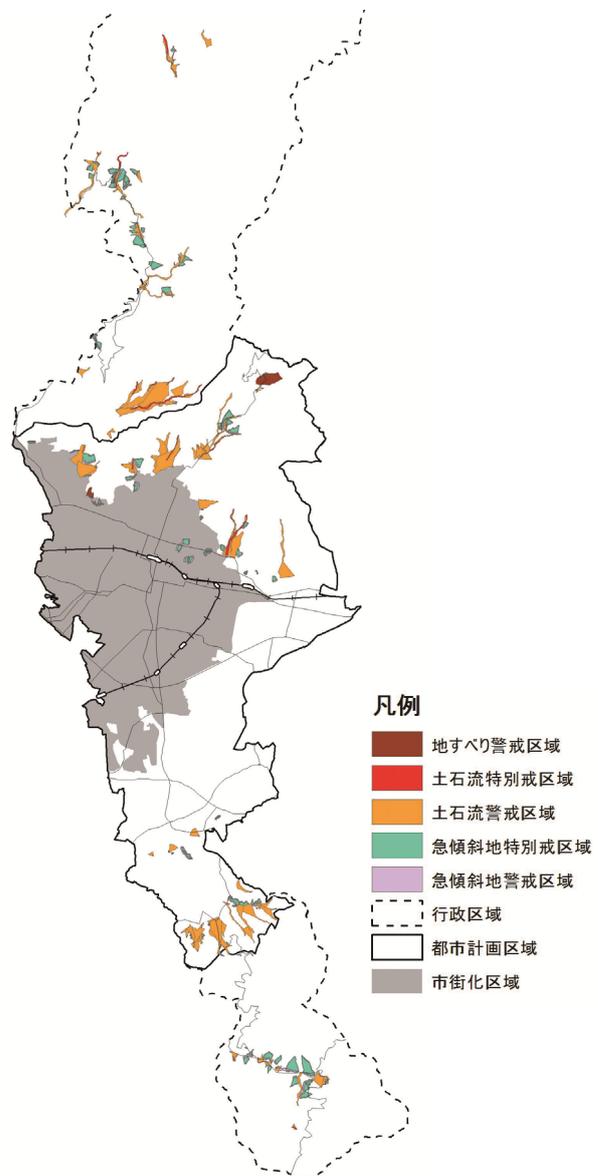
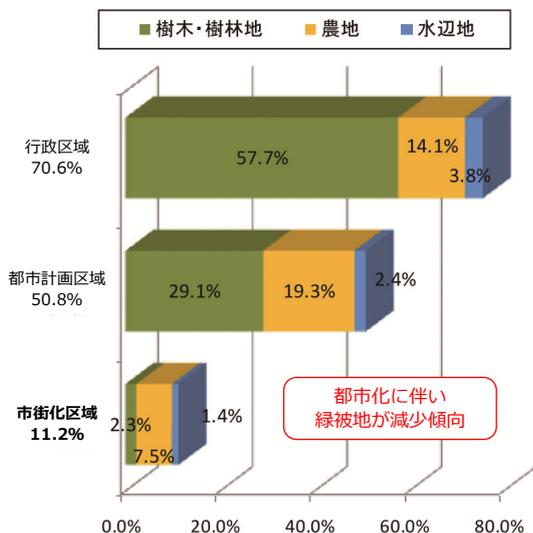


図 緑被地の割合



【資料：甲府市緑の基本計画】  
※緑被面積：航空写真と地形図の判読により測定

【資料：甲府市防災ハザードマップ】

## 分析・課題⑭

### 現況の分析

- ・本市は、豊かな里山や森林などの自然資源が豊富に存在しており、武田神社や甲府城などの歴史的価値の高い景観資源も多数有しています。
- ・甲府市景観計画（2011年12月）を策定し、良好な景観形成に取り組んでおり、先導的景観形成地区にて、よりきめ細やかな規制や誘導を図っています。

### 課題⑭

➤ 甲府らしいふるさとの景観を後世に受け継ぎ快適な環境を持続させるため、地域の実情等に即した景観の保全・創出や公共サインの統一化が必要です。

図 良好な景観の形成及び保全地区



【資料：甲府市景観計画】

写真 武田神社及び山梨大学周辺地区



写真 甲府駅北口周辺地区



図 公共サインの基本デザイン



【資料：甲府市公共サイン計画】

## 分析・課題⑮

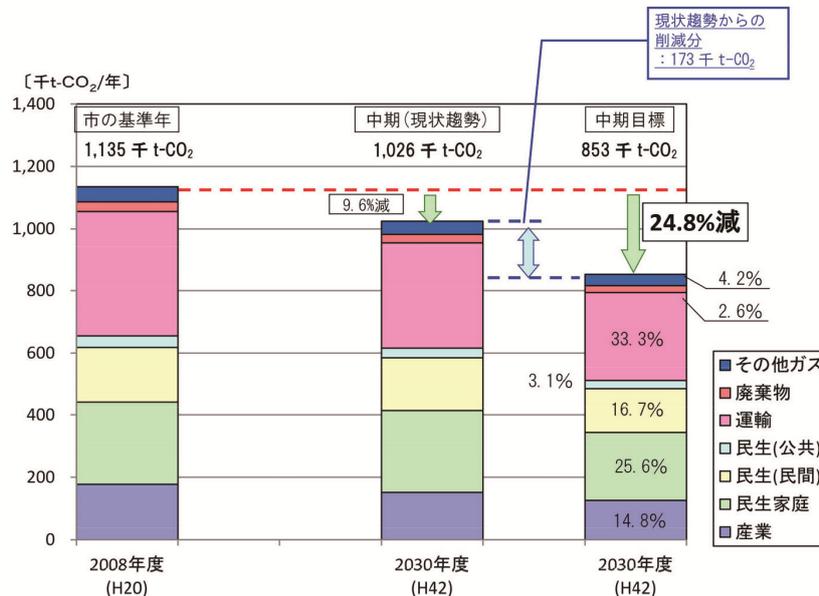
### 現況の分析

- ・ 2030年度の温室効果ガス排出量は、2008年度比で約25%削減とすることを目標としており、省エネ効果の高い設備などの導入が求められています。
- ・ 環境への負荷を考慮し、通勤通学や買い物等の状況に応じてエコで賢い移動方法の選択、省エネ住宅や施設等及び省エネ型機器の普及促進が求められています。

### 課題⑮

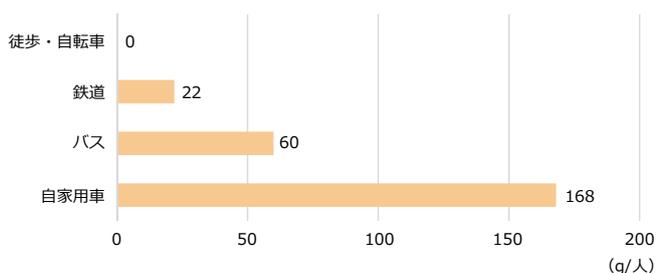
➤ 低炭素社会の実現のため、公共交通機関の利用促進や建物・機器による省エネの推進等により、温室効果ガス排出の削減に取り組む必要があります。

図 温室効果ガス排出削減率の中期目標



【資料：甲府市地球温暖化対策実行計画】

図 移動手段別の二酸化炭素排出量 (1km 当たり)



【資料：甲府市地球温暖化対策実行計画】

写真 省エネ施設 (甲府市役所)

